様式第３号 　　　 　　　会　　議　　録

|  |  |
| --- | --- |
| 会 議 名（審議会等名） | 川西市環境審議会　部会生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会 |
| 事 務 局 | 美化環境部美化環境室環境創造課　　内線（2930） |
| 開催日時 | 平成29年4月13日（木）　10時00分～11時40分 |
| 開催場所 | 川西市保健センター　２階　健康教育室 |
| 出席者 | 委 員 | 武田委員・服部委員・中本委員・信田委員・足立委員橋本委員・川西委員・釜本委員・岡田委員・岸委員・西田委員　 |
| 事務局 | 美化環境部長：米田　　美化環境室長：新田環境創造課　課長補佐：枡川 |
|  傍聴の可否 | 可・不可・一部不可 | 　傍聴者数 | １人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 | 　 |
| 会 議 次 第 | 1. 美化環境部長　あいさつ
2. 委員長及び各委員　紹介
3. 委員長　あいさつ
4. 審議事項

議題１．生物多様性ふるさと川西戦略の現状と課題について議題２．生物多様性ふるさと川西戦略推進に係る今年度の方向性について1. その他
 |
| 審 議 経 過 | 詳細は審議経過のとおり |

審　議　経　過

|  |  |
| --- | --- |
| 委員長委　員委員長委　員委　員委　員委　員委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委　員委員長委　員委　員委員長事務局委　員委　員事務局委　員委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委　員委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委　員委　員委　員委員長委　員委　員委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委　員委　員委員長委　員委　員委　員委　員委　員委員長委　員事務局委　員委　員委　員委員長委　員委　員委員長委　員委員長委　員委　員委員長委　員委員長委　員委員長委　員委　員委員長委　員委　員委　員委員長委　員委　員委員長 | 各委員自己紹介委員長は、川西市環境審議会規則第４条第３項に基づき、審議会会長の指名により武田委員とする。委員長挨拶　　委員長ご指名ということで、一言ご挨拶させていただきます。「生物多様性ふるさと川西戦略」を一昨年策定して、これを作っただけでは意味がないので。ぜひ、この会議で取り組みをどうしていくかというところで、皆様の忌憚のないご意見をいただければと思います。昨年、三菱UFJリサーチ＆コンサルティングの評価で、生物多様性に優れた自治体として、生物多様性として高い自治体として、隣の猪名川町や能勢町はあがっているのに、なぜ川西市はあがっていないのかなと。ほとんど変わらないと思うのですね。やはり、それぐらい生き物が豊富な場所であると思いますので。それをぜひ、保全していって、市民の皆様に親しんでもらいたいと思いますので。この会議では、それをどういうふうに実行していったらいいのかというのをご忌憚のないご意見をお願いしますので、よろしくお願いします。審議事項議題１「生物多様性ふるさと川西戦略」の推進について委員から報告をお願いいたします。２０１５年度から２０３２年度までの１８年間の計画です。将来像を見据えて、目標を達成するための戦略として、４つの基本戦略を定め、具体的な行動計画を考える組織として、本日の委員会を設けさせていただいております。その基本戦略でございますが、１つに環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成及び生物多様性教育となっております。２つめに、自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発、３つめが生物多様性保全の取り組みの強化、４つめが各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大ということで、これを柱に基本戦略をかけていきたいと思っています。実は、２７年３月に「生物多様性ふるさと川西戦略」ができており、２８年３月に部会を開催し、その後、環境基本計画を改定するにあたり、根幹となる「環境基本計画」と「生物多様性ふるさと川西戦略」とどのように連携を図るかということで検討を行うため、昨年度は、同部会の開催を見送り、本日、生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会を開催した運びでございます。第２次環境基本計画の発行ができれば、皆様にもご配布させていただくこととなるとは思いますが、この中で、自然環境として環境基本計画と生物多様性とを連携させられるような形で検討がされております。「生物多様性のふるさと川西戦略」の短期目標といたしまして、策定後３年間で市民の皆様にご理解をいただくということになっておりますので、今後の方向性について、ご議論いただければと思います。ありがとうございます。只今のご報告について、何かご意見等はございますでしようか。短期目標で、これまで具体的にどういうことをされたのかお教え願えませんか。実は、具体的に何か行動を起こしたことは、今のところないのですが、生物多様性を守るということで、市と企業が連携を図るという初の試みといたしまして、能勢電鉄の鶯の森駅で、「トウネズミモチ」の木が生えており、これが国の特定外来生物法で要注意外来生物として取扱いされているもので、兵庫県ブラックリストの警戒種に指定されておりまして、能勢電鉄の方にお世話になり、その木を伐採した経緯がございまして、連携して活動させていただいたことがあります。できることから、少しずつ進めているのが現状でございます。外来種の樹木伐採ということで、このような取り組みをしていることが１つと、環境創造課が独自に進める事業はほとんどないので、他の部局に働きかけて進めるということであれば、川西市では天然記念物化ということが非常に進んでいると。今、全県で、この５年間で７件ぐらいしか指定されていないにも関わらず、その内５件が川西市ということで、天然記念物に指定することで、貴重な自然を守っていこうということでは、兵庫県下だけでなく日本でもトップではないかと思います。そういうような活動をしていること。また、川西市の戦略をつくっただけではなかなか進まないので、各部局や公園とかで戦略をつくっていただこうということで。一庫公園とか、国崎クリーンセンターなどでは、もうすでに生物多様性に向けた戦略ができあがっている。後は、能勢電鉄とか一庫ダムとかにお願いして、企業の中での戦略づくりを進めていただこうということで、そのようなかたちでは、いろいろ動いているところだと思います。産業振興課はあまり動いていませんけれども、産業振興課がらみでは、既存の団体に対して応援をして、助成金を投入して市民の活動を活発化して、重要な自然を守っていただこうということを進めています。それから、公園課の方には、市の所有地である清和台東の「シロバナウンゼンツツジ」が大群生しているところをできるだけ天然記念物の申請をしていただけないでしょうかということで、今、お願いしたりしていますので、他の部局にはいろいろ働きかけしているところだと思います。数値目標値があげられていますけど、達成できているかどうかの評価は、達成できているのですか。できましたらわれわれは評価で出してみたいなという思いは持っています。やっぱり、できたからには、反省点とか評価みたいのものは必要ではないかとは思いますけれども。達成できてなかったら、いつまででも進まないということになると思うのですけれども。ぜひお願いしたいです。よろしいでしょうか。他にないようですので、それでは、服部委員の方から生物多様性推進戦略にかかる生物多様性ふるさと川西戦略推進のシンボル植物、「里山三種の」と「川西」についてでございます。服部委員ご説明をお願いします。それでは、資料１をご覧ください。A４、２枚ものとなっております。川西市では、２０１５年に「生物多様性ふるさと川西戦略」を策定しましてから，今回の会議もそうなんですけれども、宝塚市もそうなんですけれども、シンボルの生物をおいて、それをシンボルとして、多様性戦略を進めていく様なことが、どこともの流れなんですけれども。川西市の場合も少し生物多様性を守って行くんだということで、シンボルをつくったらどうかということで今回提案させていただきました。シンボルは2つありまして、川西市は日本一の里山といわれているところですので、当然、里山の生物多様性は非常に高いということで、里山をシンボルとする植物を持ってくる。そこで、「三種の心木」本当の神器は「神の器」と書くのですが、その三種の神器にかけまして、川西市の里山の非常に重要な植物３種類を里山のシンボルとしようと考えました。この3種類の重要な木といいますのは、この「一庫の炭」「池田炭」の材料は「クヌギ」ですので、「クヌギ」が重要になるのだろうと。それから、今日は「エドヒガン」が満開だろうと思うのですけれども、川西市を代表する「エドヒガン」。この「エドヒガン」は、青森、秋田から鹿児島まで非常に広く分付しているのですけれども。分布量は非常に少なくて、普通の山桜に比べると何十分の１か、何分の１かというくらい少ない植物です。この川西市の周辺を見ても、ほとんど分布していません。しかし、この猪名川流域を見てみますと、この地域だけは、非常に集中して分布していて、これは非常にまれだということで。兵庫県のレッドデーターブックの中にも記載されている非常に希少種です。それが、この川西市では普通に見られるという、川西市のシンボルとしては非常に良いということで、２番目にもってきました。３番目の「ナラガシワ」という植物ですが、皆さんご存知ではないかと思いますが、古典において、たとえば、「風土記」ですとか、「源氏物語」ですとか、「万葉集」ですとか、平安時代では、「ナラガシワ」のことを「カシワ」と呼んでいたのですけれども、ここで、「カシワ」といっているのは、全部「ナラガシワ」のことなんですね。これが、江戸時代に入って、柏餅を江戸でつくるようになります。この柏餅を包むときに包んだのが、今でいう「カシワ」だったので、結局、植物分類学者がそこで、取り違えてしまって、北海道や東北に多い植物に「カシワ」という名前を付けてしまった。本来ならば、「ナラガシワ」に「カシワ」をつけなければいけない由緒正しい本物のカシワなんですけれども。それを三種の心木の一つにしようと。それと、「ナラガシワ」を三種の心木にしようとした理由には３つあるのですけれども、「ナラガシワ」のカシワの葉を、奈良時代に天皇が「ここに取りに行け」と。その取りに行けといった場所はどこかというと、川西市の「畦野」なんですね。この畦野に「カシワ」の葉を取りに行けと「采女」とう宮廷の女官なんですけれども、女官に命令したと。その宮廷の女官は、この畦野に「カシワ」の葉を取りに来たと。だから、宮廷からわざわざ取りに来るぐらいですから、非常に品質の高い「カシワ」があったと。で、「カシワ」の葉をなんのために使ったかというと、お皿代わりに、何枚かのカシワの葉を竹の串で止めて、お皿をつくると。それを神殿に備えて、非常に大切な神事の時にこのカシワの葉を使ったと。その大事な葉をわざわざこの畦野に取りに来たと。そのようなことが、住吉大社の神代記という書物に書かれているということですね。それが第１番ということで。第２番目は、絶滅危惧種昆虫の中で、「ヒロオビミドリシジミ」という非常にきれいな蝶々がいます。その「ヒロオビミドリシジミ」というのは、近畿地方から中国地方に分布している昆虫で、朝鮮半島からわたってきた昆虫なんですが、それの分布の東の端が、ちょうど川西市の笹部にあたっているんですね。分布の東限の限界が、川西市内にあるという。これも非常に貴重なものであると。それともう一つは、川西市のものすごく大きな文化であると。もうすぐ５月になると「ちまき」をつくります。その「ちまき」といいますのは、普通のコンビニで買えますけれども、笹で巻いている「ちまき」が普通にありますけれども。実は、「ちまき」というのは、茅の葉っぱで巻くということで、「ちまき」ということが出ているのです。その茅で巻いていた「ちまき」が見事に分化していって、いろんな植物の葉っぱで巻くようになる。例えば、淡路島ですと、薄で巻いたり、葦で巻いたりと分化していきます。ところがここの猪名川上流域では、川西市だけではないのですが、能勢町、豊能町、猪名川町、阪神北部一体の「ちまき」というのは、ナラカシワの葉を巻いたうえで、その上を葦の葉っぱでまくという。２重巻きにしているという。今、猪名川上流域で「ちまき」を作っているお宅は、ほとんど絶滅しているのですが、川西市では、今西さんのお宅が未だに「ちまき」をつくっているということで。そのつくっている植物がナラカシワということも、ここで三種の心木にした一つの理由です。そういうことで、その「クヌギ」「エドヒガン」「ナラガシワ」というのは、川西市の代表するような植物だということであげました。２番目の生物多様性ふるさと川西戦略における自然。川西市には、里山だけではなく、いろんな自然があります。その自然のシンボルとして、「川西五木」木曽五木などは有名ですけれども、その地域で重要な植物の樹木を定めたということで、川西五木という名前を付けました。まず、第一番目はブナ林ですね。ブナ林は、今まで全部能勢町の方にあると思われていたのですが、実はよく調べてみると、川西市にも大木は８本ほど川西市の領域にあったということで、市の天然記念物にもなりましたけれども、代表的な「ブナ」ですね。それから、川西市の平野にあります多太神社という神社がありますけれども、これは「延喜式」という平安時代の古い書物にものっているという非常に古い神社なんですが、この多太神社には、しいの林があります。しいの林というのは、まさに照葉樹林の代表種で、地域を代表するような植物なんですが、「コジイ」ですね。「ブナ」が海抜の高いところに、海抜の低いところに「コジイ」という自然の植物を選んだということで。３番目の「ユキヤナギ」なんですが、ユキヤナギというのは、河川の岩場に出てくるちょっとした特殊な植物なんですが、これは、かつては猪名川の渓谷伝いにずっと広がっていたのですが、今は、残念ながら、鼓が滝のあたりにしか出ていないのですが、そういう意味で、岩場を象徴する意味で、「ユキヤナギ」を。それから、先ほど、公園緑地課にお願いしました、清和台東の川西市の所有地なんですが、その中に「シロバナウンゼンツツジ」という真っ白いツツジが咲きます。今ちょうど咲いていますのは、ピンクのツツジで、「コバノミツバツツジ」なんですが、これよりも少し小ぶりで真っ白なツツジで、「シロバナウンゼンツツジ」もそんなに珍しいものではないのですが、このように群生しているところは非常に少ない、というところで、「シロバナウンゼンツツジ」がいいのではないかと。川西市では、たぶん清和台東ぐらいしか分布していないと思います。それから５番目は、先ほど、委員が「オオムラサキ」の話をされていたと思いますけれども、川西市にも「オオムラサキ」という国蝶、国の蝶々ですね、国蝶に指定されているような蝶々がたくさん飛んでいます。その国蝶の「オオムラサキ」の幼虫が食べる食層が「エノキ」ですけれども、「エノキ」は非常に大木になるので、昔は、一里塚なんかによく植えられた植物なんですが、非常にシンボル的にはいいだろうと。「オオムラサキ」以外にも、「ゴマダラチョウ」ですとか「テングチョウ」ですとかそういうようないろんな蝶々がつくという。生物多様性にとっては、こういうものがいいと。そういうことで、川西市のいろんな自然を代表する「ブナ」「コジイ」「ユキヤナギ」「シロバナウンゼンツツジ」「エノキ」というようなものを揚げました。今、説明しました内容につきましては、お渡ししました資料の中に書いておりますので、細かいところはその点を見ていただいたら良いと思うのですけれども、川西市の里山と川西市を代表する自然のシンボルとして、「三種の心木」と「川西五木」というのをご提案させていただいたということで。ありがとうございました。只今、委員の方から報告がありました。これについてご意見等があればよろしくお願いします。自然保護を実施するとき、こういうふうなシンボルをつくるということは有効だと思うのですね。それを目指して、それだけを保全するのではなくて、一緒に周りも保全することができるし、周りの生き物も保全することができるし、シンボルをつくると、わかりやすいというかそういう気がします。やはり、地域ごとにいろんなシンボルをつくるといいと思うのですけれども、この場所では、こういうのを保全するんだという意識でやれば、非常に理解し易いし、やり易いのではなかと思うのですけれども、いかがでしょうか。全くその通りでいいと思います。特に、「ナラガシワ」なんかは、大和、先ほど委員が畦野の話をされたんですけれども、大和フォレストクラブで、自分たちの畦野の語源が采女とかの絡みで、自分たちのまちを「守っていこうよ」「知っていこうよ」「ふるさと」だというような考え方をされていますので、そういうふうなことをわかり易く、親しみを感じるというような形での発信というようなことで、私は大賛成でございます。他にいかがでしょうか。川西市独自の特徴的な種類があげられているのですか。実際には、「クヌギ」なり、「エドヒガン」なり、「ナラガシワ」というのは、田舎の川西市内だけではなく、猪名川町ですとか、能勢町とか豊能町で、広がっているのですけれども、そういう意味で早く指定した方が勝ちだというのが僕の考え方なんです。同じようなものがあるだとしたら、川西市は、「特徴はこうだ」ということで先手を打つことが非常に大事で、「エドヒガン」に関しても、箕面市に「エドヒガン」のものすごい大群落があるのですけれども、全然注目していなくて。１本も天然記念物になっていないのですね。あれは、箕面市なんか、非常にもったいないと思うのですけれども。そういう意味では、川西市が率先してきちんとやっていくというのは、他の市にとってもプラスになるのではと思います。それと、川西市がつくっています新しい公園には、「クヌギ」とか「エドヒガン」を植えていただいているのですけれども、その中にもう少し、「ナラガシワ」を入れていただければ。その他に街路樹に「エドヒガン」とか「ナラガシワ」を使ってみるのも地域性を出すのには面白いと思います。よろしいでしょうか。植物もそうなんですけれども、昆虫なんかもこういうシンボルをつくってみたらどうですか。いいんじゃないですかね。宝塚市は、「ハッチョウトンボ」を、日本で最小のトンボをシンボルにして、やっているので。将来的にでも、今年度でも、次の機会でもいいのですけれども、シンボル動物なりシンボル昆虫なんかもあってもいいのではないかと私は思います。これでもう決めてしまっていいのですかね。これで行くという。部会の中でそのようにお決めになられたら、それをどのようにPRしていくかということで、それについては、検討もしてみまして、ただ決めましたというだけでは広がらないので、PR方法を考えていきたいと思っています。１点だけお聞かせいただきたいと思います。シンボルにしていこうとしたら時間をかけて、市としてシンボルにしていくことになると思うのですね。委員がお話していただいたのは、部会の中でとりあえずシンボルを決めさせていただくという考え方でよろしいでしょうか。その辺はどうでしょうか。川西市の市の花だとか木を決めるのに、選考委員会で決めてしまったらおかしいと思うのですね。市民の木だということで。ただ、ここは、多様性のシンボルということで、多様性を推進していくうえで、シンボルがあった方がいいのではないかというようなところで決めているので、これをいちいち市民に問うという必要はないのかなと思います。それをするとなると、推進委員会でやっていることすべてを市民に問わなければならないということになるので、だからこれはここで決めれば、私はいいのではないかと思いますけれども。戦略委員会でこういうふうに決まりましたのでということで、市民の皆さんにPRしていけばいいということでよろしいでしょうかね。それと、いいんですけれども、小学校の環境学習で、こういう川西市の有名な樹木とかいろんなものを教えるというか、いろんな観察会なんかをやっているのですけれども。実際にそれが伝わっているかどうか、ちょっと疑問なんですよ。地域にいろんな方がおられるんで。学校の先生もよくご存知なんですけれども、地域の方に一緒に行ってもらって、そういうお話をしてもらうのもいいのではないかと思うんです。私は、家の前にいろんな木が植わっていて、１年生２年生の子がよく散歩で来られて、「これはこんな木ですよ。」と説明すると、「ああ珍しい」といってものすごく喜ぶんですよね。やはり、こういう川西市の多様性ということを推進するのに、学校教育でも先生方にそういうことを教えてもらうとか川西自然教室とかいろんな自然に関わっていく団体もあるので。そういう方々もお声をかけて一緒に地域のことを教えてあげるのが、川西市のふるさとを認識する一つの方法ではないかと個人的には思っているんですけれどもね。あんまり、知らないんですよね。よく公園に、１年生や２年生の子どもが来るんですよね。来たら、これは、この木はこうでといったらワアーと喜んでいますよね。先生が連れてこられて、先生は優秀な方が多いので、ご存じなんでしょうけれども、あまり時間とかがあって、お話をされないのではないかと思うのです。ですから、広く回らなくても、けやき坂には１７の公園があるのですけれども、低学年の方が回っておられます。でもそのお話ではなしに、さあっと通って終わっている現状ではないかなとそういう感じを受けたので、自然豊かな市なので、そういう学習も野外学習として取り入れておられるので、ぜひ推進してほしいなあと思います。よろしいですか。今、言われたように、これは、委員がおっしゃる内容かもしれませんが、小学校３年生の環境体験学習については、県から言われて全県でやっていることで、それ自体はすごくいいことなのですが、川西市では、これは、兵庫県で川西市だけなんですけれども、４年生で里山体験学習というものをやっているのです。３年生、４年生と続いて、今度、５年生の自然学校につながるということで。体験学習が一番発達しているのがこの川西市ということで。その中で、このようないろんな生物のお話とかが進められたらなということで思っているのですけれども。そうですね。やはりこういう支部みたいのなのがあるとすごく説明がしやすいということですね。なんか、お聞きすると「有馬富士に行くねん」と、いうお話をよく聞いたりするけれども、なんで能勢へ行かないのかなということをお話したことはあるのですけれどもね。地域の小学校で。やはりその辺、ご存じないのかもしれませんけれども。遠く行くことがいいことではなしに、豊かな自然がいっぱいある。お声をかけていただければ、我々もお話をしますし、川西市内にも色々な団体がありますから、有効に活用というか利用してもらったらいいのではないかと思うのです。すぐ、お礼とか謝礼とかを考えられますけれども、そんなことは要らないのではないかと。ただ、お声をかけていただいたら、ちゃんと協力はする団体ばかりだと私は思っています。よけいになりましたけれども。他にいかがでしょうか。今は、非常に良いところをいっているのではないかと。この生物多様性戦略と学校教育、環境教育。それといかにリンクさせるかというもう少し具体的な体制というか、仕組みを作ることがまず大事だと思います。これは、教育委員会ともいろいろ打ち合わせはあるかとは思いますが、それが大事ではないかなと。その辺の話は、次の課題にもなるのですけれども。とりあえず、シンボルをどうしましょうかね。私は、いま、「オオムラサキ」の、先ほど委員が「エノキ」のことをおっしゃいましたので、その中に含まれる認識でいたのですけれども。いま、「オオムラサキ」で公のセンターとしてあるのは、日本では、山梨県の北杜市のオオムラサキセンターと札幌の栗山町の栗山パークがありますけれども。そこが運営しているのですけれども。１つの例をとりますと、北杜市のオオムラサキセンターでは、年間２万人ぐらいの小・中学生、東京からも含めてですが来るというのです。私は、将来、この「オオムラサキ」を西のオオムラサキセンターとなっていけるような夢を描きながら、やっていけたら。ここは京阪神に近いですから。将来的には、そんなものをにらみながら、原点は、生物多様性ふるさと川西戦略になろうかと思いますが、そのような展開になって行けばいいなと思います。そうですね。だから、昆虫の方では、シンボルにするとしたら、「オオムラサキ」とか「オオクワガタ」とかを、シンボルにしてもいいし、いろいろ考えられるのではないですかね。それでも、もちろん考えていただければいいと思いますけれども。具体的に、いまいうように、オオムラサキとかが出てきたのですけれども、初谷川の笹部からのところに「今でもいているんですよ」とかいうわかり易い発想を、連結して、「生物多様性」といったら生物多様性ですよね。「ふるさと」といったらすぐそこにある。川西市の中で。そのように結び付けられるような、わかり易いような形に。現実的に笹部のところにいているんです。笹部から豊能町のときわ台のところにいているんですよね。そういうところに、自分たちの村には、こういうのがいて、尚且つ、その舞台がエノキですよと。そういう連携をつけるような、ようは発信があってつながってくるように思うのですよね。言っておられることは、わかり易いようにということと全く一緒のことなんですけれども。どうわかり易く具体的にするかということが、一番大事やなあと思います。それは、村でもそうですし、どこでもそうです。全部そうです。どこどこ、どこどこに、こういうのが自生して、こうなっていると。先ほど委員さんもおっしゃったように、自分たちの地域教育につながっていくと。そういうふうに思います。そういうことですが。他には。そうしたら、シンボルをつくるという方向でいかしていただいてよろしいですか。五種は次回でよろしいですか。いえ。「三種の心木」自体は、まえの生物多様性戦略の中に入っているので。三種類が入っていて、今回、新しいのは、「川西五木」なんですけれども。だから、この種を検討するとなると、また、いろいろ案が出てくることとなるで。私としましては、これで行っていただいた方が、やはりいいのではないかと思うのですけれども。いかがでしょうか。賛成です。そうしたら、一つの方はというのは、こういう形で、生物多様性のシンボルとして、川西市の生物多様性のシンボルとしてあげるということでよろしいでしょうか。―――　了　承　―――ありがとうございました。そうしましたら、次は、生物多様性ふるさと川西戦略の今年度の方向性について、ご意見はいかがでしようか。　川西市は、日本一の里山というものがあるのですけれども、その里山を担当している部局がどこなのかということがはっきりわからないのですね。産業振興課であるようで、産業振興課でもないし、環境創造課であるかというとそうでもないし、ということで。私は、川西市自体が、里山の重要性を訴えるのであれば、もう少し、里山担当課というものをはっきりした方がいいと思います。そういう担当課がはっきりすると、ナラ枯れの問題でもきちんと対応できるのだけれども。いま、ナラ枯れが発生したときに、どこが対応していいのかわからないという状況にちょっとなりかけているように思うのですけれども。その辺の、里山の担当課ですね。それをどうするかということですね。まあ、環境創造課自体は事業を持っているわけではないので、担当するのは非常に難しいとは思うのですけれども、ちょっとその辺、考えていただけたらと思います。あと、ナラ枯れについては、議会でも何回も取り上げられていますので、ナラ枯れの対応みたいなものをつくってはっきりした方がよいと思うのです。その意味で、兵庫県が委員会をつくっていまして、兵庫県の委員長を私がやっておりまして、兵庫県の担当がここの委員長のお弟子さんで、委員長は、ナラ枯れの研究をずっと続けてこられていますので、その辺の情報も、本日、共有していただいて、やっていただいたらどうでしょうか。委員長、ちょっとナラ枯れの状況をご説明いただいたらどうでしょうか。ナラ枯れの調査をやっておりまして、一つは、週４で学生にやらしておるのですけれども、終わっているところもあって、行ってみたら何にもなくなっていて。そんなに大きな心配をする必要はないし。いま、吹田市で、紫金山公園で、そこは周りが孤立していて、ナラ枯れがすごく進んでいます。そこも、われわれのグループが調べているのですけれども、入った木の２割も枯れていない。見た目はものすごく枯れているように見えるのですけれども。本数を数えたらそうでもなかったということです。コナラは割と枯れやすい。中でも「アベマキ」と「コナラ」を比べると、「コナラ」の方が枯れやすい。「コナラ」は３割ぐらい。入って３割ぐらい。「アベマキ」の方はそんなに枯れていない。というような状況なので、たぶん、山全体からみたら、真っ赤になっていたら目立ちますけれども、そんなに心配することはなくて。５年ぐらいしたら納まるので。大丈夫だとは思いますが。ただ、公園とか山道になると、枯れた枝が落ちたり木が倒れたりするので、そこは、処理しておかないとたぶん危ないと思います。問題なのは、どうしても守りたい木は、大木なので。なると、そこだけは処理しないといけないかと思いますが、山の中のものは、自然に任せておいても大丈夫だと思いますけれども。そんなに心配することはないです。委員長がおっしゃいましたけれども、いま、西宮市で発生している事例は激害なんですね。ちょっと今までのレベルと違うくらい。単位面積当たり、１０ｍ×１０ｍの枠の中をとると、そこが全滅しているようなそんな状態のところもあるので。川西市の今の発生の状況が、委員長がおっしゃるようなレベルで「目立つけれど大丈夫だよ」というレベルなのか。西宮市のように激害の状況になっているのか、まだ、情報が入っていない状況です。何らかの調査は、どの課がやるのかは別にして、産業振興課なのか、環境創造課なのかは、別にして。いまの発生状況が、委員長レベルかそれを超えているかということを、きちんとつかんでおくこと。それから、危険木について、どこに危険木があって、危険木については、だから一庫公園なんかでは、大発生しているのですが、そこは一庫公園が管理しているのですけれども。だから所有者がわからなくなって、しかもそこに道路が通っていると非常に危ないので。そういうところは、公的に伐採しないとしょうがないと思うのですけれども。そういうことの調査だけは最低限必要だと。「カエンタケ」の調査も含めて、なんかそういうのは最低限必要かなと思います。一応、調査していただいて、どういう状況かということを把握していただければ、いいのかなと思いますけど。予算を計上しているわけではないので。予算がない中で、どう調査するかという問題はあるにしても、でも、これは必要だと思います。最低限の調査を。だから、伐採なんかを始めますと、経費がかかりますけれども。どの程度発生しているかという状況だと、むちゃくちゃお金がかかるわけではないので。何とか考えていただいた方がいいのではないかと。生物多様性を守るうえでも、ナラ枯れの問題は非常に大きいので。太いとか細いとは関係なのですかね。樹齢とか。発生しだすと、太いのがやられていますけれども。一庫公園では、かなり細いのもやられています。そうですか。「コナラ」、「クヌギ」。最盛期なると、全部入っているのです。紫金山公園では、「コナラ」と「アベマキ」に入って、それから入るところがなくなって、「アラガシ」に入ると。「アラガシ」はほとんど枯れてないのですけども。細い木も全部、ほとんど９割以上入っています。そのうち枯れるのは、紫金山公園では、２割ぐらいかなと。入った後に、樹液が出るので、そこにものすごく昆虫が集まって。去年は、「カブトムシ」の大豊作になっていました。いまの件につきましては、関係部局と相談させていただきまして、対応を検討していきたいと思います。もう１点ですが、さきほど委員がおっしゃったように、今回の環境基本計画の改定につきまして、目で見て、皆様に興味を持っていただけるよう、活動団体のコラムを載せました。実は、市内の環境に関する活動団体ついて、実態把握ができていないと思うのです。まず、環境創造課として、部会を通じて、どういう団体がどういう活動をしているのか把握する必要はあるかなと。でないと、ただ単に、自然保護や生物多様性の観点から考えるとしても、活動が把握できていない状況で、お話ができないかなと。委員からは、この部会にも、このような活動をされている団体を加えていくのはどうかとのご提案もありますので、１～２団体ぐらいこの場に加わっていただき、ご議論をいただけたらと思いますが、その辺はどうなんですか。そうですね。川西市が進んでいるのは、市民団体の活性度が非常に高いと。私が知っている自然関係だけを見ても、日本でトップクラスに行くのではいかと。例えば、水明台のグループでは、学校教育と一体になって、小学校３年生、４年生から幼稚園まで引き受けていただいて、そういった体験学習をやっていただくということで。だから、ボランティア団体というのは、全部高齢化が進み、人数が減っていっているのですけれども、水明台は減っていなのですね。そういうグループとか。それから、清和台東でやっているグループですね、「虫生川の自然を守る会」、それから、「エドヒガン」を守っている「川西里山クラブ」ですとか、「菊炭友の会」ですとか、「フォレストクラブ」ですとか、すごい団体がある。そういう状況を先ほど言われたように、どこかが押さえているかといえば押さえていないようで、そういうところとの連携といいますか、市だけでは多様性を守ることはできないので、そういう団体と一緒に守って行くということは非常に大事なことなので。いま言われたように、そういうところとの連携。特にこういう委員会にもそういうところの代表に入っていただくと。川西自然教室ですか。ずっと報告書を出していただいていますけれども。あそこなんかは、データ自体が膨大にあると思いますけれども。そういうところが入って、一緒にやっていただくというのもいいのではないかと思います。所管といたしましては、まず、それからの取り組みを。たぶん、これは動きとして遅いとは思うのですけれども、まだそんな次元かといわれるかもしれませんが、実際、その部分をつかまない限り、できないであろうということで。今年度は、この部会に代表して、活動団体から入っていただくと。それで、いろいろこういう活動をしていると。そして、いま何がその活動団体に不足しているかといったことも、この耳で、目で確かめておく必要があるのかなと思います。この１年間そのようなこともしないといけないのかなと思います。実際活動するのは、市民団体なので。知るということもあるし。それとやはり支援していかないといけないところもあるし。吹田市では、申請すればボランティア保険を市が入ってくれるんですよね。そういう形で登録してもらって、支援をしていくという形にしていけるようにしていった方がいいのではないかなと。やはり、生物多様性を保全していこうとすると、現場で活動している人が中心になってくるので。行政がいくら頑張っても、そんなにできないですから。後方の支援を充実させていくことが大事なんですね。そのためにも、どういう団体がどんな活動をしているかを知る必要があると思います。いま、その窓口が川西市でははっきりしていないと。産業振興課がなっているけれども。産業振興と市民参加の里山管理とか自然管理ということが結びついていないんですね。だから、産業振興課は無理だと思います。名前からしてそういうことができるような構造ではないというのが。ですから、私から見ていると、余分な仕事と考えているのではないかという感じがしますね。産業振興課の方がおられないところで、むちゃくちゃ言って申し訳ございませんが。確かに、窓口がはっきりしていないのも。これは、まずいですよね。いろんな活動をするときに、窓口を１本化してもらうと非常にやり易いのですけれども。私どもの団体も、「オオキンケイギク」や「ナルトサワキク」の特定外来種の駆除をやろうとしているのですけれども、公有地でないとなかなか私有地まではできないので。許可をもらうときに、公園なのか道路なのかで違ってくるのですね。管理するところが公園であれば公園に出さないといけないし、道路であれば道路に出さないといけないし。それを１本化していただくと、１か所に出せばいいので。そういうことだけでもややこしいこともあるので、そういう活動の窓口を１本化というのは大変重要ではないかと思うのですけれども。その辺、ちょっと考えていただければ。兵庫県の自然環境課の受け皿はどこが受けているのですか。環境創造課ですよね。窓口を１本化するという、中で調整するだけの話なんですけれども。環境審議会の部会として、生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会ができましたので、先生方のご意見を直接聞ける機会が持てることとなりましたので。今回、活動団体の把握に向けては、環境創造課で、皆様のご意見をお聞かせ願って、充実させていけたらなと思います。また、さまざまな形でPRしていけたらいいのではないかと思います。われわれ環境創造課でどこまでできるかはわかりませんが、できることから始めていきたいと思います。何年か前に、川西市内で自然環境の活動をされている方を参集して、いろいろご意見を、自然を守るどういう活動をしているかということをやられたことがあるのですよ。一度、また、確か６団体あると思うのですけれども。一度その方々のご意見を聞いたら良いのではないですかね。私も一度、何かで出たことがあるのですけれども。河川をやっているところとか、菊炭をやっているところとか。いろんな団体があると思うのです。私は、川西自然教室にいました。いまは、体を悪くしてから、脱退していますけれども。そのときに、２から３回出たことがあるんです。現場の生の声が聞けるので。現実的に、すごく、「へえ、こないなっているのかな。」と思うようなもことも出てくるのではないかと思うのです。それで、取り組みができてくると思うのです。まあ、一度ご検討ください。聞きっぱなしになっていると、相手は納得してくれないので。そこが、大事なところでなないかなと思いますね。生物多様性の保全とか、これについては、一つの部局ではできるものではないので。いちいち、あっちの部局、こっちの部局と話を持っていくとものすごく混乱するし。ですから、窓口を一つにしてもらって、その中で調整してもらうということが一番いいのではないかと思うんですけれども。生物多様性地域戦略を兵庫県は進んでいて、おそらく１４市ぐらいが作っていると思うのです。ところが、戦略をつくって、全く動いてない市がいくつかあるのです。例えば、明石市ですが、なぜ動かないかというと、戦略作りをするのは環境省サイドで動きますので。自然環境であれば、自然環境系で。ここでしたら、環境創造課で。ですから、事業を持っていないところがやるわけですよね。環境管理というような形で。ところが、実際に事業を持っているのが、公園課ですとか、道路とか、河川とか。こういうところが事業を持っていて。こういうところが、生物多様性とかのいろんな問題が出てくるのですね。植栽植物一つにしても。そうすると、事業を持っている部局と環境部局が相互に連携し合わないと絶対うまくいかない。明石市の場合は、全くうまくいっていないので、戦略をつくったけれども、俺らは知らんと。放っているわけです。ですから、今動いているのは、外来種対策の亀の対策だけは動いているのですが、何も動いていないということになってしまう。ですから、環境部局としては、事業部局に特に相談を持って行って話をしていかないと、自分のところに予算がないので動きようがないと。で、市民団体との調整とかが絶対必要だと。調整官庁そのものだと。環境省の役割は、まさにそうですけれども。そういうことが必要になってくると思います。伊丹市は割とそういうことをやっているのではないですか。私も、２～３回参加したことがありますけれども。水の水路の散策とかを、３回か４回参加させていただいたと思うのですけれども。伊丹市は、この生物多様性の戦略をつくっているのは、どこがつくっているかというと公園課なんですよ。公園課が戦略をつくるので、少なくとも、公園の部分では動くのですよ。自分とこの管理区間の中では。もちろん、教育委員会とかほかのところではなかなか影響力を発揮できないのですが。少なくとも、自分の部局では動くので。西宮市もそうなんですが、事業部局が、生物多様性戦略をつくっているところは比較的動きやすいということになります。だから事業を持っていないところが動かそうとなれば、他部局とのすごい調整がいるのでなかなか難しい。一番進んでいるのが加西市ですね。私と委員長が委員で行っている。加西市は、環境部局でやっているけれども、調整が非常にうまくいっている。市があまり大きくないので、調整が簡単にいくんだと思いますけれども。加西市なんかは一つのモデルだと思います。まあ、市民の方にいろんなところを、市内を見ていただくという取り組みが一番大切ではないかと思うのですよ。個人的には。そうしたら、いろんな反応がいっぱい出てくる。環境が良いか悪いか。傷んでいるなとか。悪くなっているなとかいいなあとか。こういうことをしたらいいのではなかという意見が素人の目から出てくると思うのですよ。予算の問題もあるかもわからないですけれども。一度、そういうピックアップもしていただいたら。能勢電鉄もいろいろハイキングとかもやっていただいていると思うのですけれども。地元の方も多いと思いますけれども、みたら阪神間の方が非常に多いと。失礼なことをいって悪いのですけれども。すごくたくさん。本当にびっくりするほど参加されています。年２回ほどやっておられますけれども。市の方ではなかなかやりにくいかもしれませんけれどもね。だから、事業予算ではなくて、広報予算を確保されたらいいんですけれどもね。予算がないのではなく、その予算を取らなければいけないと絶対に思うのですけれどもね。やはり、予算がないとね。結局、啓発といったって、パンフレットつくるにしてもお金がかかるし。一般市民への普及啓発にしても。庁内への普及啓発もしていかないとね。広報誌だけではだめですか。集まり悪いですか。川西市の広報誌でも行けると思います。お手伝いできることがあればやりますので、一度ご検討ください。市内にはいろいろな団体があるから、提供しながら、能勢電車はプロですけれども。そういうことを共同でやるというか、アイディアを出し合いながらやられたらいいのではないですかね。川西市の人口は１６万人ですけれども、４万人はもともとの方だと思います。あと、１２万人は他市というか、周辺からおいでになった方だと思うのですよ。だから、興味は持っていると思うのです。私も、ある団体でやっていた時も、いろんなところからお見えになって、参加されていましたからね。やはり、催しを、イベントをやるということは行政ではなかなか難しいと思いますけれども。どこかにお願いしてやったらいいのではないですかね。能勢電車は、やっておられますけれども。たくさん参加されていますからね。それで自然を知るということが大切だと思います。市外の方が参加されると大変うれしいのですけれども。西宮市とか池田市とかの方が多いのではないですかね。そういう感じを持っています。一度ご検討ください。先ほど、委員からもお話があったように、我々行政としてイベントを催すよりも、活動団体のイベントに合流させていただいたりとかして、我々が知る。我々が知識を持つ。今の我々にとって必要だと思います。そして、できましたら、この１年、部会の中に活動団体の代表の方が委員として参加していただいて、お話をお聞かせ願いながら、活動団体が一堂に集まって、報告していただけるような、ざっくばらんに聞かせていただけるような会を持てたらなと思います。そのためにも、この部会に、団体のご代表の方に入っていただきたいと思います。私は賛成です。ぜひ、入れていただいて、お話を聞かさていただいたらと思います。NPO間でも、なかなかお互いの活動内容を知るということは少ないと思います。そういう機会もつくっていただけたら、非常にありがたいと思います。川西市でいろんな団体がこういうところで、こういう活動しているちょっと行ってみようかというような、団体だって連携ができる方がいいと思いますので。その辺も併せて考えていただいたらいいと思います。教育委員会を代表するわけではありませんけれども、教育委員会でやっています小学校３年生でやっています環境体験学習ですね。これは、学校の先生だけでは絶対にできないので、地元のそういう団体と一緒にやりたいと。何校かの学校はそういうふうに結びついているのですが、まだ、結びついていないところもいっぱいある。ですから、そういう団体にお願いしたいので。だから、そういう団体にぜひ集まっていただいて。団体自体は、あるのですけれども。まだ、引き受けていただいていないので。そういうところともぜひ連携していきたいですね。教育委員会としても、連携したいですね。すいません。教育委員会の代表みたいに発言いたしまして。ここに教育委員会から委員がいらっしゃっていますのに。とんでもないです。そういうのも、窓口が一つになるとものすごくやり易いと思うのですけれど。それは、教育委員会に行ってくれということになると、ちょっと話がまた複雑になってくるので。窓口を一つにしてもらって、生物多様性関係はこっちへというようなことをやってもらうと非常にありがたいと。それから、庁内の連絡協議会みたいなものをつくってもらって、話し合いの場をつくって、話をしてもらわないと全然伝わっていかないのと違うかなと。加西市は、別途、庁内連絡会議を開いておられますけれども、ここの会議は、市の職員の方がいっぱい来られていますので、ここが連絡会議的な感じになるようにも思います。何かありませんか。いまのところが、一番大事なところだと思います。連携をするというか。市長がやれば全部伝わるというわけでしょうから。例えば、自然教室の会長が委員として入っていただくというのはいかがでしょうか。先ほども、膨大な資料をお持ちということで、この場でご披露いただければと思うのですが。何か具体的に決めていかないと前に進まないと思うのですが。こういうことをやると決めたら、それに向かってやっていけると思うのですけれども。話し合いをしているだけではだめだという状況になってきていると思うのですけれども。そこで、動いているのは、例えば、天然記念物のことに関して、教育委員会が天然記念物の担当なんだけれども、自然環境、生物多様性を保全しようと思えば、天然記念物に該当するような重要なものを、環境創造課がいうと。その言ったことが天然記念物になっていくことになると。ここに公園緑地課長がこられていますが、公園緑地課が実際に、天然記念物の申請で水明台なんかを出していただいているのですね。水明台は、市の所有物なんだけど、その所有者から天然記念物申請がないと動かないのですね。だから、ほとんど日本全国天然記念物申請が止まっているのは、まさにそのせいなんですね。川西市は、市の所有物については、市からきちっと出していただいている。それを教育委員会が受ける。能勢電鉄の所有地に関しては、能勢電鉄から重要性を出していただいている。だから、重要ものについては、法的な強制力をかけることが一番理想的なので、天然記念物申請が進んでいるというのは、川西市の生物多様性保全が進んでいるという評価の一つだと思いますけれどもね。その天然記念物指定は、環境創造課の仕事ではないけれども、そのことを教育委員会にお願いして、一緒にやっていくということがまさにここの一つの姿であるというふうに私は考えていると。いろんなところと連携していかないと前へ進まないので、そういう意味で具体的な案があればどんどん出していただいて、周知していただくというのが重要ではないかなと思うのですけれども。他の部局であってもこういうことをやっているということをどんどん出していただいて、こういう状況になっているとか、今年度はこういうことをやろうかということを決めていかないと、どこまで進んでいるのかということになるので。進んでそうなのがあれば出していただきたいと思います。こういう新聞記事ですね。こんなのをどんどん出していただいたらいいですね。こうことをやっているんだということで。新聞だと、川西市内だけでなく、近隣までわかるので、これは、神戸新聞のインターネットの情報でも出ていましたから。それをどんどん発信をしていけばいいと思います。３月２８日に文化財審議会があって、文化財審議会の中で、川西市黒川の能勢電鉄社有地の中の「台場クヌギ」が、天然記念物に「なっていいよ」ということになったのです。それは、教育委員会にかけなけなければならないので、教育委員会にかけて「いいよ」ということになれば、正式に天然記念物として動き出すのですけれども。「里山」で天然記念物になったというのは、里山的なものを天然記念物にした例は、国の方にもあるのですけれども。「里山」いう名前は使っていないのですね。今度の場合は、「里山」として天然記念物指定したということで、日本で初めてのことなんです。こういうようなものは、もともと生物多様性ふるさと川西戦略の中に、重要だということで書き込んでいただいていていた。書き込んでいただいたことを教育委員会と能勢電鉄で受け取って、申請を出していただいたということで。これも生物多様性ふるさと川西戦略のおかげだと思うのですね。天然記念物になったというのは。そういうのをアピールしいただいたらいいのではないかと思うのですけれども。シンポジウムをしていただくとか。その点では、「シロバナウンゼンツツジ」なんかはやろうとされているのですから、同じことですよね。他にいかがでしょうか。せっかく市の担当からが来ていただいているのですから、一言ずつぐらいいかがですか。平成２６年度末に景観計画を策定させていただき、景観について皆様への周知・啓発を図っています。皆さまに景観を身近に感じていただくために、毎年、ハガキ絵を募集させていただいて、応募作品の内から、ポストカードやカレンダーとして、販売させていただいています。毎年８月の末から９月の始めに、市民ギャラリーにて約２週間景観展を開催しています。ちなみに昨年度は、「道」をテーマに今も残る多田街道をご紹介させていただきました。ハガキ絵につきましても、「道」をテーマに皆さんから募集しました。２９年度の夏の景観展を目指して、２８年の秋からハガキ絵を家の周りの身近な景観として、募集させていただいている最中です。また、景観を守ることをテーマに、２８年度末にフォーラムも開催させていただいて、市民活動でどんなふうに景観を守っていけるかと他市で実績のある先生をお呼びして、講演会とワークショップを開催しました。「川西市の良い所」を紹介するなどの取り組みを行うことで、景観への関心と普及・啓発の活動を進めていきたいと思います。公園緑地課は、緑地の管理と公園の適正な利用のためにある課なんですが、先ほど委員がおっしゃったように、虫生川の環境を守る会とか渓の桜など、緑地をご利用いただいて、一般に見ていただけるような環境をつくっていただけるところでございます。公園緑地課として積極的に生物多様性について動けるかといったら、現実問題、公園緑地課として動く手法が今のところありません。民間のNPOがこの緑地を使いたいというのに対して、それでは占有を許可しますという形での関わり方しかないので、うちもジレンマ的なものはあります。緑地が荒れている部分もあって、全部やるには、予算的部分もあって、追いつかないという部分もあって、今後は、また、何か良い方法はないかなというようなことを検討してまいります。道路管理課では、昨年の３月は参加していないのですが、うちの役割、位置づけとしては、河川との連携ということですけれども、猪名川であったり、他の河川があったりと思うのですけれども。全部が、国の管理であったりということで、うちとして河川管理者として交渉窓口、いろんなかかわりの窓口としての位置づけで、前回、もともとの所管である都市政策室というところが、担当されていたのではないかと思うのですが、この度、所管替えになりまして、道路管理課の方にきましたので。基本的に河については、流域ネットという活動がありまして、契約といいますか、合意書を交わされている団体との連携をさせていただく。主に川西市の役割といたしましては、河川清掃をしていただいているNPOであったりとか、各種団体の集められたごみを回収するというようなところで。勉強不足なところはあるんですけれども。そういう役割いう部分で認識しています。で、今回、河についての関わりはそういうことで。まだ、その所管になって間もないのですけれども。道路管理課というところの中で、今まで、委員さんの方から、道路ということで、それについての関わりということでお話しされていると思いますので。それについては、うちが主体的に関わらせていただきたいと思うますので。また、お話しできればと思います。他には。私は、３月までは牧の台幼稚園で園長をしておりました。牧の台幼稚園の方では、七夕の笹の時期には、フォレストクラブにお世話になりまして、七夕の笹のご協力をいただいておりました。また、緑保育所との交流のなかで、まだ、実現ができていないのですけれども、見晴らし緑地の散歩など、緑保育所と幼稚園が交流していけたらと話をしていました。後は、先ほどのカシワの葉の話がありましたけれども。幼稚園の方では、こどもの日の集いで、昔の由来をするときに、実際に、カシワの葉っぱを見せて、お皿で使っていたことなど子どもたちに話をする機会があるのです。やはり、本物に触れて子どもに由来の話をする機会をすごく大切にしたいなと思いますし、シンボルや川西五木のようなものがいろいろ出てきますと、遠足や園外保育など、幼稚園や保育所においても川西市内で十分良いところがあると感じることができ、子どもたちが、しっかり「目で見て」「触れて」「感じる」良い機会になると思って。私はすごくわくわくして聞かせていただきました。また、森の幼稚園ということで、毎年、各公立幼稚園が、一庫公園でお世話になっています。幼少期のころから、保護者や周辺の家族が川西市をより深く知っていただく機会になればと思い、良いお話を聞かせていただいたなと思います。ありがとうございました。学校教育の中では、子どもたちが直接的に、体験することを大切にというところです。体験活動というのは、自然とかに直接触れ合うというところと、もう１点は、地域の人とのふれあいというものもが非常に大事かなというところで。先ほど委員からお話がありました、本市の方では、体験活動というものを大変重視しておりまして、小学校３年生で、兵庫県の事業を活用した環境体験とか、あと４年生で本市単独で里山体験とか。５年生で自然学校と。一定体系的に取り組んでいるところです。そういった中で、各学校が工夫しながら、地域の方のお力添えをいただいたりとか、地域の活動団体のお力添えをいただいたりしながら、取り組んでいますので、そういった意味で、今日、お話がありましたけれども、いろんなさらに活動される団体を主として情報を収集していくというところは、非常に学校教育においてもありがたいかなと思います。そういったところをしっかり連携していきたいと思います。ありがとうございました。他に何かありますか。ありがとうございました。これをもちまして、生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会を終了したいと思います。 |